

船舶事故調査報告書

平成23年2月3日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲 也

委員 根本 美 奈

事故種類	操船者死亡
発生日時	平成22年8月28日（土） 14時00分ごろ
発生場所	長野県安曇野市明科七貴の犀川に架かる木戸橋
事故調査の経過	平成22年9月7日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	カヌー（船名なし）、総重量20.1kg 船舶番号なし、個人所有 4.6m×0.77m×0.4m、船体布（化学繊維）及びアルミパイプ製（組立式） 機関なし、平成15年10月購入
乗組員等に関する情報	操船者A 男性 38歳 操船者B 女性 41歳
死傷者等	死亡 1人（操船者B）
損傷	アルミパイプの曲損及び折損
事故の経過	<p>本船は、後席に操船者A及び前席に操船者Bが救命胴衣を着用して乗り、それぞれがパドルを操作して長野県豊科町を流れる万水川から川下りを始め、その後、流れに沿って犀川を下った。</p> <p>本船は、犀川に架かる安曇野市明科木戸橋の上流約15mに達したとき、操船者Aと操船者Bが同橋の橋脚と左岸との間を通過するつもりでパドルを操作したところ、右舷を川下側にして流れに横たわる態勢となり、木戸橋の橋脚に向けて流された。</p> <p>本船は、操船者A及び操船者Bがパドルの先端で橋脚の側面を突いて橋脚への接触を避けようとしたところ、平成22年8月28日14時00分ごろ、橋脚を押しした反動と水流とにより左舷側に大きく傾いて転覆し、その状態で橋脚に押し付けられた。</p> <p>操船者Aは、本船から脱出して下流の川岸にたどり着いたが、操船者Bが見当たらないことに気付き、後から下ってきたカヌーの操船者に警察及び消防への通報を依頼した。</p> <p>操船者Bは、18時ごろ、木戸橋の下流約1.3kmで救命胴衣を着用した姿で発見され、溺死と検案された。</p> <p>本船は、17時ごろまで橋脚に押し付けられていたが、その後、川下に流され、翌日、下流のダムで発見された。</p>
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、気温 約34.2℃、視界 良好
その他の事項	操船者Aは、約7年間のカヌー歴があり、犀川での川下りを5～6回経

	<p>験していたが、操船者Bはカヌーに乗るのが初めてであった。</p> <p>操船者A及び操船者Bは、ともに水泳が得意であったが、カヌー転覆時の脱出訓練を行ったことがなく、本事故当時、半袖のスポーツシャツ、ショートパンツ、アクアシューズ（水辺用スニーカー）及び布製帽子を着用していた。</p> <p>操船者Bの健康状態は、良好であった。</p> <p>本船は、デッキ上からの浸水防止のため、座席の周囲にコーミングカバーを取り付け、スプレーカバーを着用するようになっていたが、事故当時、暑かったのでスプレーカバーをコーミングカバーに取り付けていなかった。</p> <p>本船は、最大積載量が290kgで、本事故当時、操船者A及び操船者Bの合計体重は約100kgで、内部に食料、調理道具及び着替え等約30～50kgの荷物を積載していた。</p> <p>本事故当時、本船のバランスは良好で、左右の傾斜はなく、安定性等に問題はなかった。</p> <p>本船の最大喫水は、15～16cmであった。</p> <p>犀川の川下りは、初心者コースといわれていた。</p> <p>木戸橋付近は、流れが速くなる場所であり、本事故発生場所の水深は、人の背丈より少し浅い程度であった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>操船者Bの死因は、溺死であった。</p> <p>本船は、犀川に架かる木戸橋付近を川下り中、流れに横たわる態勢で木戸橋の橋脚に向けて流され、操船者A及び操船者Bがパドルの先端で橋脚の側面を突いて橋脚への接触を避けようとした際、橋脚を押し戻した反動と水流とにより左舷側に大きく傾いて転覆したため、操船者Bが没水し、本船から脱出できなかったものと考えられる。</p> <p>操船者Bは、カヌーの経験は乏しかったが、水泳が得意であったことから、転覆時の脱出訓練を行っていれば、本事故の発生を回避できた可能性があると考えられるが、本船から脱出できなかった状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、犀川に架かる木戸橋付近を川下り中、木戸橋橋脚への接触を避けようとして転覆したため、操船者Bが没水し、本船から脱出できなかったことにより発生したものと考えられる。</p>	